

日本山岳会蔵資料紹介 No.15

[資産番号] 10059、10064、10072、139
 [資料名] 足立源一郎山岳画
 [部門名] 絵画
 [寄贈者] 足立源一郎、足立 朗
 [受入日] 不明



①焼岳河原にて(1951年作)



②滝谷第二尾根(P8号、1959年作)



③北穂高岳主峰(25号、1959年作)

足立源一郎(1889～1973年)は日本が誇る山岳画家である。足立の山岳画は、現場主義として高く評価されている。それは1年の大半を北アルプスで過ごして描くという、足立ならではの作風からであろう。1971年、最後の登山として長堀山へ登る。そして1973年、最終作『春の穂高岳』を仕上げている。

山岳作家としても、国内外に多くの足跡を残した。代表作に『滝谷ドームの北壁』(1952年)、『北穂高岳南峰』(1957年)などがある。

当会へは絵画4点が寄贈されており、3点(写真①～③)は本部に展示、1点(ある朝の槍ヶ岳、25号)は伯耆国美術館に寄託している。今号では本会に展示されている①～③について紹介する。①焼岳河原にて(104号室に展示)、②滝谷第二尾根(102号室に展示)、③北穂高岳主峰(ロビーに展示)。

足立の残した日記や手帳のメモなどを基に、長男の朗氏が画家の作家活動記録としてまとめたレズネ『画家 足立源一郎の記録』(2002年4月/三好企画)が、朗氏より寄贈されている。それによると手帳には、1930(昭和5)年の北アルプス(剣岳)から1970(昭和45)年の沼山峠までの登山記録があり、3点の絵画については次のように記されている。

- ①“10月5日(金)晴。田代池に行く、ホタカ美しく。午後焼岳を描く。時雨模様になり早々に引きあげる。夜雨”
- ②“5月5日(火) 10時より第二尾根P2に下る”
- ③“5月3日(日) 13時北穂小舎着。稜線の積雪頂上より六メートル高し”

なお、日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→資料映像委員会へアクセスすると、「会報ページそのもの」を「拡大およびカラー」で見ることができます。活用ください。また、公開資料に関する情報・ご意見・ご教示など、次までお寄せください。 ☒jacshiryo102@jac.or.jp (資料映像委員会)

◆編集後記◆

● 頭記事に「登山の本質は、人間臭いところをさらけ出さねばならないし、山は仮借なき相手である」とをたたきつけられて知る」「どんなに人間社会が変わっても山は変わらない」とある。「一人が好きでも淋しいのは嫌い」と一人用テントを買ったものの、たちまち限界を知った新入会員もいるようだ。先日、ある会員が営む山小屋に泊まった。長年にわたり多くの登山家、文学者が集ったその宿の主は、「登山は、山は、人生を豊かにしてくれるものである。だからこそ、深く関わりなさい」というようなことをおっしゃった。当会も山に深くコミットできる場でありたい。

● 海外出張中、他編集メンバーが校了してくれました。(柏澄子)

日本山岳会会報 山 833号

2014年(平成26年)10月20日発行
 発行所 公益社団法人日本山岳会
 〒102-0081
 東京都千代田区四番町5-4
 サンビューハイツ四番町
 TEL 東京(03)3261-4433
 FAX 東京(03)3261-4441
 発行者 日本山岳会会長 森 武昭
 編集人 柏 澄子
 Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
 印刷 株式会社 双陽社